

三田の街路樹

福岡 忠彦 (三田市在住)

高橋 晃・布施 静香 (人と自然の博物館)

はじめに

街路樹は四季の移り変わりを感じさせてくれる身近な自然であり、街の景観形成に重要な役割を担っています。同じ建物を背景にした通り慣れた道でも、街路樹があることで四季折々の変化を楽しむことができます。三田市はニュータウンを中心として街路樹が比較的整備されており、住民の中にはこの街の街路樹の景観を転居のメリットの一つに挙げられる方もいます。一方で落ち葉の処理や繁茂による通行の妨げなど、街路樹が沿道住民の苦情の原因になり敬遠されていることも現実です。街路樹に対する住民のメリット意識、デメリット意識からいろいろな議論がありますが、三田の街路樹を知るための第一歩として、まずどんな樹種がどこにどれだけ植栽されているかを明らかにした街路樹マップを作ろうと考えました。行政サイドに尋ねても三田市の街路樹が一覧できるそのようなマップはないということでしたので、2003年度に受講したひとくセミナー「植物リサーチクラブ」の中で、各受講生が1年間かけて実施するテーマとして本課題を設定し、調査を行いました。

街路樹マップ作成

調査の結果から作成した街路樹マップを図1に示しました。また三田市の街路樹として植栽されている樹種とその割合を表1にまとめました。植栽率は、調査結果を記録した地図ソフト上で植栽距離を算出して求めました。その結果、三田の街路樹の特徴について以下のことがわかりました。

- ①街路樹の植栽はニュータウンが中心。
- ②29種の樹種が植栽されており、落葉樹が81%を占める。
- ③樹種別ではケヤキが最も多く(29%)、シラカシまたはアラカシ(11%)、トチノキ(7%)、ユリノキ(7%)がそれに続く。
- ④県木でもあり、兵庫県の街路樹(高木)で植栽率1位を占めるクスノキは使われていない。
- ⑤まだ若い樹が多く、大きく繁茂しすぎた弊害や腐朽による倒木の危険は少ない。

表1 三田市の街路樹に使われている樹種(福岡ほか2007より)

	樹種	植栽率 (%)
常緑樹	シラカシ・アラカシ	10.6
	クロガネモチ	3.5
	ヤマモモ	2.3
	ドイツトウヒ	1.5
	マテバシイ	0.8
落葉樹	ケヤキ	29.2
	トチノキ	7.4
	ユリノキ	6.5
	ハナミズキ	5.0
	サクラ類	5.0
	トウカエデ	4.8
	ナンキンハゼ	4.5
	モミジバフウ	3.4
	メタセコイア	2.3
	ニセアカシア	2.1
	イヌエンジュ	1.9
	イチョウ	1.5
	ハナノキ	1.4
	カツラ	1.2
	コブシ	1.1
	モミジバズカケノキ	1.1
	ラクウショウ	0.8
	アキニレ	0.6
	エンジュ	0.5
	オニグルミ	0.3
	サルスベリ	0.3
	ハクモクレン	0.3
	エゴノキ	0.1
		計

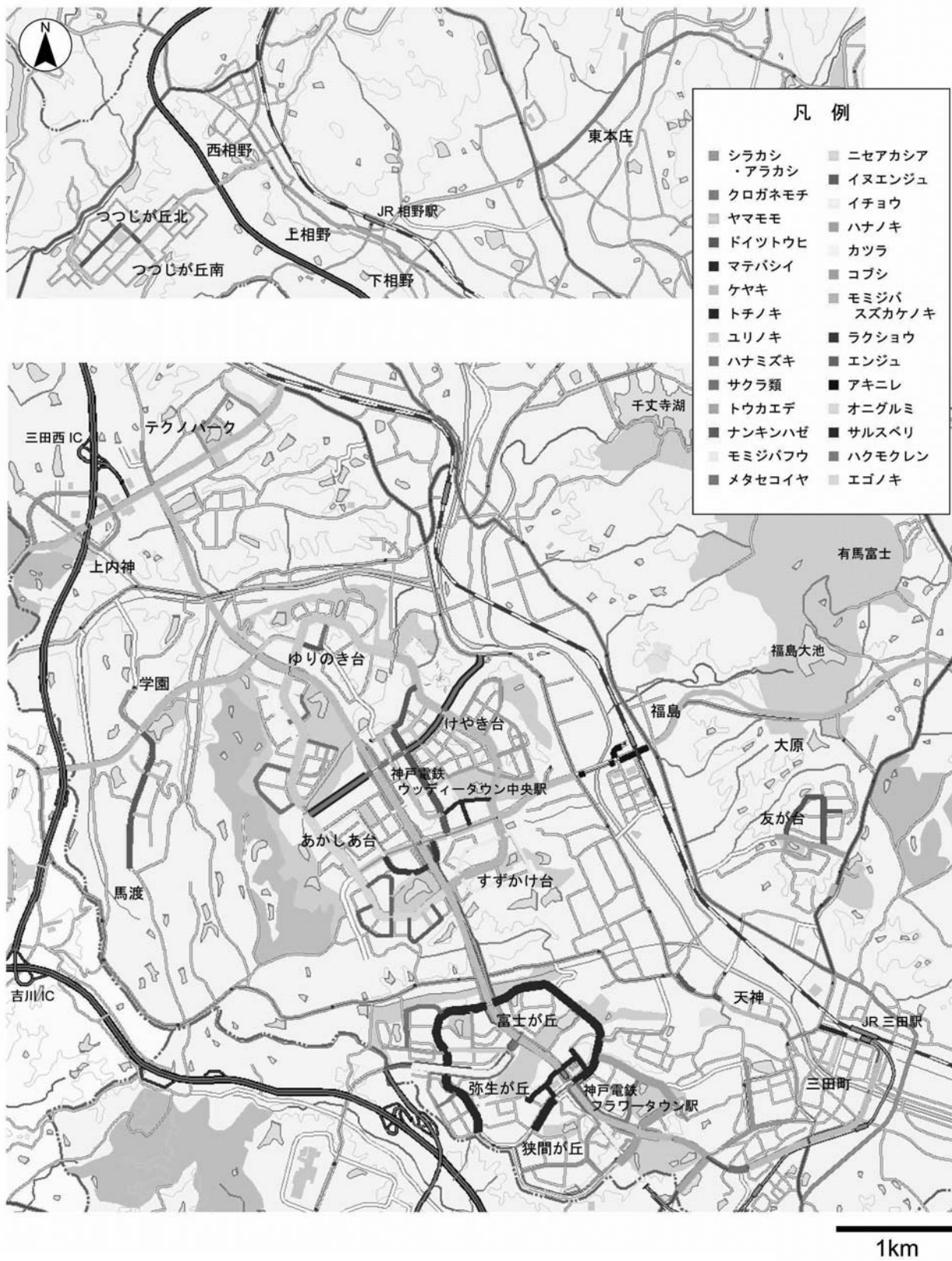


図1 三田市街路樹マップ（昭文社スーパーマップル・デジタルver. 5 使用）

気になった並木としての美しさ

調査をしていて気になったことがありました。それは例えば同じ樹種が連続して植栽されている道路で、生育が良く樹形も揃っていて並木として美しいと感じる一画と、その反対に生育や揃いが悪く並木としての美しさに欠ける一画が混在していることでした。また道路を挟んだ左右で、並木の揃いがアンバランスになっているブロックもありました。

街の景観を形成するという街路樹の機能を考えたとき、美しい街路樹の条件として「並木としての統一美」が挙げられます。すなわち同じ樹種であっても樹形や枝葉の密度の揃った樹木が、同じ植栽間隔で切れ目なく連なっていることが大切だといわれます。そこでこうした視点にたって、上述の「調査をしていて気になったこと」についてもう少し詳しく調べてみることにしました。

活力度診断調査

三田市のほぼ中央に位置するウディタウンの環状道路（全長約7km）を調査対象として、街路樹の活力度診断調査を行いました。この環状道路には、町名に対応（例えばけやき台地区にはケヤキ）した4種類の樹種（ケヤキ345本、ユリノキ502本、ニセアカシア324本、モミジバスズカケノキ178本）が街路樹として植栽されています。調査は、表2に示した診断基準に基づいて、1本1本の樹木の活力度を外観から判断し、A～Eの5段階で評価しました。

表2 活力度診断基準

診断項目	活 力 度				
	A	B	C	D	E
樹勢	街路樹として枝や葉の成長量が多く良好に育っている	街路樹としては比較的成長は良く、緑量もある	枝先の枯れや葉の大きさ、色の異常等の症状があらわれている	枯れ枝が目立ち、そのまま放置すれば樹勢は衰退していく	枝や葉の量が著しく少なく、生育状況がかなり不良
樹形	望ましい樹形を保っている	若干の乱れはあるが、望ましい樹形に近い	望ましい樹形の乱れが進んでいる	望ましい樹形がほぼ崩壊し、回復の見込みが少ない	望ましい樹形が完全に崩壊している

(山本三郎 (編) (1999)ツリドクターNo.7所載表を改変)

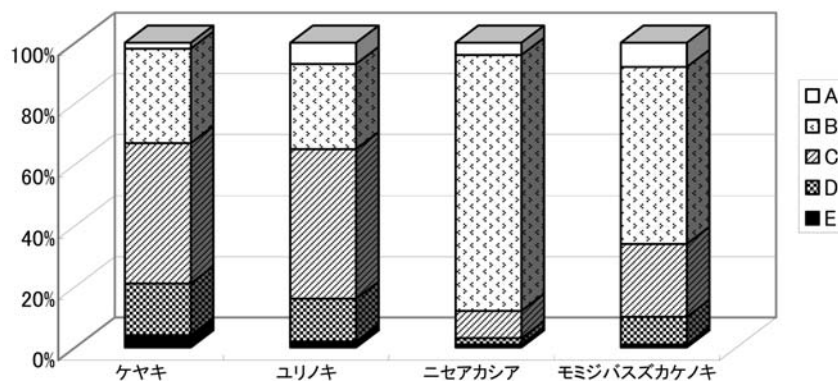


図2 ウディタウン環状道路に植栽されている街路樹の活力度診断結果

調査の結果は図2に示しました。生育状態が不良で樹勢が衰退し、望ましい樹形が崩壊している活力度DあるいはEに相当する個体の割合は、樹種によって異なりますが、約3～21%

(全体では約13%) ありました。

こうした個体が少なければ少ないほど、街路樹の並木としての美観が損なわれることも少なくなると思われます。街路樹は山に自生している樹木とは異なり、生育空間がきわめて制約されるため、どうしても人の側からのケアが必要となります。活力度のある、好ましい樹形と樹勢を維持していくためには、樹木の特性を熟知した剪定等の適切な街路樹管理が望まれます。そういった意味で街路樹は、「人と自然の共生の場」でつくられる作品ともいえるのではないかと思います。これからも三田の住民の一人として、この街の街路樹を見守っていきたいと考えています。

参考文献

- 福岡忠彦・高橋 晃・布施静香 (2007) 兵庫県三田市の街路樹調査. 人と自然 No.17, 35-41.
藤原宣夫・武田ゆうこ・米澤直樹 (2004) わが国の街路樹Ⅴ. 国総研資料第149号, つくば, 235p.
亀野辰三・八田準一 (1997) 街路樹・みんなでつくるまちの顔. 公職研, 東京, 210p.
亀山章 (編) (2000) 街路樹の緑化工. ソフトサイエンス社, 東京, 214p.
日本造園建設業協会 (社) (2006) 街路樹剪定ハンドブック, 151p. (非売品).
渡辺達三 (2000) 「街路樹」デザイン新時代. 裳華房, 東京, 172p.
山本紀久 (1998) 街路樹. 技報堂出版, 東京, 160p.
山本三郎 (編) (1999) ツリードクターNo.7, 日本樹木医会, 東京, 348p.